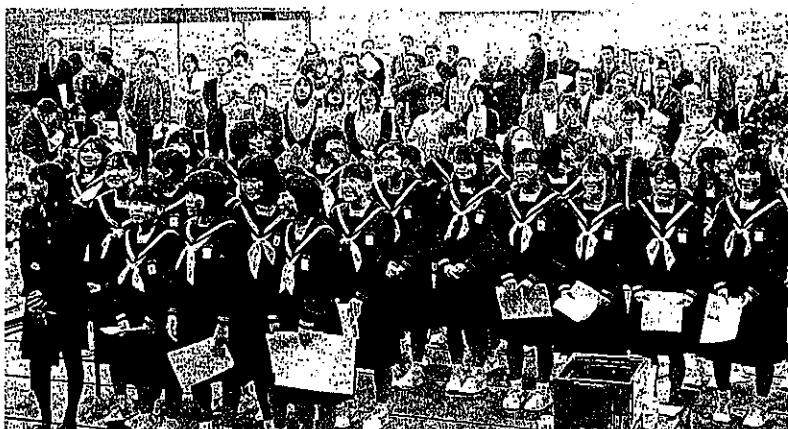


地元に不安、一時中断



閉校記念式典に続く「思い出を語る会」で校歌を齊唱する旧野田中の生徒たち。右は三甲高中的旧野田中生徒。

（）（）（）田原市内の中学校を統合せし市の「新校全体配置計画」。一四年に公表した当時は、少子化を踏まえて小規模校の回避を図り、大胆な学校再編計画として脚光を浴びたが、現在は小休止状態に。統合先や統合時期をざるだけ早く見直す方針だ。一時中断の背景には、地域の核となる学校を失う「いじめ対応の地元含意の難しさ」などが浮かぶ。（鈴野峻也）

(角野峻也)

な統合時期を計画に明記した。
たゞ現状は、中学校を四校に統合するなどが立ったが、小学校は三校が統合した伊良湖岬小以外は手つかずのままである。花井隆教育長は「百二十人以上が望ましいが、数字ありきで

計画では廿四の小学校を七十から一百二十校の中学校を七十から四十校。

田原市の学校統廃合 学校全体配置計画に基づき、津波浸水想定区域にあつた旧渥美小と旧和地・旧伊良湖小が統合し、2015年4月に伊良湖岬小が誕生。16年4月には旧野田中が田原中に統合された。19年4月には伊良湖岬中に複式学級になり、21年4月には泉中が赤羽根中に統合される」とも決まっていて。現状では、市内の全18小学校で複式学級はないが、「1校は毎学年で1クラス体制。市の試算では20年度以降、鷲山小で複式学級になる可能性がある。」

「過疎化につながる」こと花井教育長。出雲のいはばざーか」と懸念する。学見入希望者も機械式力学

落成へ過疎化につながるのではないか」と懸念する。 ■新たな負担も 市は今後二十年で公施設の二割減を目指す方針を打ち出して、人などが地区役員会に伝えた上で、計画を検討する考え方を示す。 生徒を基に、将来の入学実績を予測して、定着率や標準学年率などの可能性がある。 人口減少社会に突入した今、子どもの数が減った地域での教育環境はどうなるのか。決して田原市だけの問題ではない。

落成の「選課化につながる要」と社教長。出るのではないか」と懸念する。生趣を盡し、将来の入念する。

■新たな負担も 市は今後二十年で公施設の三割減を目指す方針をお出ししている。統合によるスケールの縮小は、メリットはあるが、小学校にも少人数教育の教育施設は三割。校規模校に

生見込予定者や複式学級になる可能性があるかないか地区役員に検討する結果を示す。

を実現し、一人一人が輝けるといった利点がある。